



AI特許検索・分析プラットフォーム Patentfield : AIサマリー機能と2025知財・情報フェア出展の包括的評価

PatentfieldがリリースしたAIサマリー機能は、特許情報の「読む」から「見る」への体験変革を目指す革新的なサービスであり、8000万件の特許を生成AIで要約・構造化することで、特許情報へのアクセス障壁を大幅に低減しています。10月1日に予定されているAIサマリーグローバルの追加により、グローバル特許調査の効率化も実現される見込みです。2025知財・情報フェアでの出展では業界の注目を集め、プレゼンテーション会場は満席となるなど、市場の高い関心を示しています。^[1]
^{[2] [3] [4]}

PatentfieldのAIサマリー機能の革新的特徴

AIサマリー機能の中核技術と仕組み

Patentfieldの新機能「AIサマリー」は、日本国内の特許・実用新案公報を対象に、生成AIが特許文書の全文を解析し、発明の核心を4つの観点で整理・要約するシステムです。具体的には、「何に使えるのか（用途）」「何を解決するのか（課題）」「どんな良いことがあるのか（効果）」「技術的なポイントは何か（特徴）」という観点で、特許独特の専門用語を避けた平易な文章による要約を提供します。^{[1] [2]}

この技術により、これまで専門家でなければ困難であった特許情報へのアクセス（読解・検索・分析）が格段に容易になります。生成AIは収録済みの特許・実用新案公報の全文を学習・解析し、発明の用途・課題を体系的に分類した独自の分類ラベルも同時に収録するため、直感的な発明理解をサポートします。^{[2] [1]}

3つのコア機能による包括的特許分析

AIサマリー機能は3つの主要機能から構成されています。第一に「AIサマリー表示」では、生成AIが特許文書を4つの観点で整理・要約し、分類ラベルとともに表示することで、発明の核心を瞬時に把握できます。第二の「AIサマリー検索」では、平易な言葉での検索とAI検索を組み合わせることで、特許独特の専門用語を知らなくても関連特許を容易に発見できます。第三の「AIサマリー分析」では、分類ラベル情報を活用した用途・課題マッピングにより、技術のポジショニングを直感的に可視化します。^{[1] [2]}

PatentfieldのAI機能一覧

機能	説明	対象	追加費用
AI表示	4観点要約+分類	日本特許等	なし
AI検索	平易検索+AI改良	日本特許等	なし
AI分析	技術ポジション可視化	日本特許等	なし
AIグロ表示	海外特許日本語化	米欧中韓台WO	月額30%
AIグロ検索	日本語海外検索	米欧中韓台WO	月額30%
AIグロ分析	グロマッピング	米欧中韓台WO	月額30%

PatentfieldのAIサマリー機能一覧：標準機能とグローバルオプションの比較

特に注目すべきは、AIサマリーが平易な言葉で要約を作成することで、開発アイデアの自然な文章を入力するだけで、従来よりも関連度の高い検索結果が得られるよう、アルゴリズムが改良されている点です。これにより、思い立ったときに誰でもすぐに関連特許を検索できる環境が実現されています。^[1] ^[2]

AIサマリーグローバル：10月1日リリース予定の国際展開

グローバル特許調査の革新

2025年10月1日にリリース予定の「AIサマリーグローバル」は、米国・欧州・中国・韓国・台湾・WOの海外特許を対象に、日本語でAIサマリーの各機能を利用できるサービスです。海外収録国の特許・実案の内容について、日本語に翻訳した独自要約（4つの観点）と分類ラベルを収録し、海外特許についても日本語で特許のポイントを瞬時に把握できます。^[1] ^[2]

このサービスにより、日本語で海外特許のテキスト検索・AI検索が可能になり、グローバルでの関連特許検索を強力にサポートします。さらに、海外特許に付与された日本語の分類ラベル（用途・課題ラベル）を使用して、グローバルで横断した用途・課題マッピングも実現されます。^[2] ^[1]

料金体系とアクセシビリティ

AIサマリーグローバルは法人向けCorpプラン（5ID～）でのみ契約可能で、個人事業主向けBASICプランや法人向けMiniプランは対象外となっています。オプション料金はアカウントID月額料金（その他オプション除く）の30％で設定されており、例えばCorp-XS（5ID）月額30,000円の契約の場合、AIサマリーグローバルのオプション料金は月額9,000円となります。^[1] ^[2]

一方、国内特許を対象とするAIサマリー機能は、Patentfieldの標準機能として提供され、すべての契約ユーザーが追加費用なしで利用できます（Freeプランユーザーは除く）。この料金戦略により、国内特許分析の敷居を下げつつ、グローバル展開に対してはプレミアムサービスとして位置づけています。^{[2][1]}

2025知財・情報フェア & コンファレンス出展の戦略的意義

業界最大級イベントでの存在感

Patentfieldは2025年9月10日から12日に東京ビッグサイトで開催された「2025知財・情報フェア & コンファレンス」に出展し、業界関係者の高い注目を集めました。展示ブース番号W3-10では、生成AIを活用した新機能とPatentfield AIRの展示を行い、特許を「読む」から「見る」に体験変革する新機能について詳細な案内を実施しました。^{[3][4]}

会場内の特設会場で実施されたプレゼンテーション「Patentfieldが描く『生成AI×特許情報』の次世代化」は既に満席となり、新たな聴講申込みが停止されるほどの人気を博しました。このような反響は、AI特許分析市場におけるPatentfieldの技術的優位性と市場での注目度の高さを示しています。^{[4][3]}



Exhibition booth for the root ip cloud intellectual property management system at the 2025 intellectual property fair in Tokyo.

来場者限定サービスと無料トライアル戦略

フェアでは来場者限定ウェビナーの案内チラシを配布し、ウェビナー申込み特典として新機能と Patentfield AIRの1か月無料トライアルアカウントを提供しました。Patentfield AIRの無料トライアルでは約2000件分の公報処理が可能（GPT5.1-nano使用時）となっており、実際のサービス体験を通じた顧客獲得戦略を展開しています。^[3] ^[4]

会期期間中は毎日1時間に1回の頻度でブース内セミナーを開催し、事前申込み不要・参加無料で気軽に参加できる環境を提供しました。このような積極的なマーケティング活動により、潜在顧客との直接的な接点を創出し、サービスの認知度向上と導入促進を図っています。^[4] ^[3]

競合環境と市場ポジショニング分析

主要競合他社との機能比較

日本のAI特許検索・分析市場では、Patentfield以外にも複数のサービスが競合しています。AI Samuraiは特許調査支援に加え、AIによる特許文書作成機能に特化し、発明創出から特許申請支援まで完結できるシステムを提供しています。同社のAI Samurai ONEは類似文献評価や明細書の自動生成機能を標準搭載し、特許調査コストを最大40％削減するとしています。^[5] ^[6] ^[7]

Summariaは特許文書読解支援に特化したサービスで、読み上げ機能付きの特許要約ツールを提供しています。パテント・インテグレーションはAI特許情報サービスを提供する一方で、Patentfieldに対して生成AI関連の特許権侵害訴訟を複数提起しており、業界内で大きな話題となっています。^[8] ^[9] ^[10] ^[11] ^[12]

AI Patent Service Comparison				
Service	Main Features	AI Tech	Pricing	Position
Patentfield	AI Search/Ana	Semantic+GenAI	Free/Basic/Ent	Total Platform
AI Samurai	Patent/Doc Gen	Similar+Auto	Free+Paid	Doc Creation
Summaria	Summary/Read	Voice+Summary	Free Plan	Read Support
AI孔明	Analysis/Trend	Data+Predict	40k yen/mo	Strategy Focus
Patent-Int	Patent Info	GenAI Patents	Enterprise	Litigation

AI特許検索サービス市場の競合比較：主要プレイヤーの機能と特徴

特許権侵害訴訟と市場への影響

パテント・インテグレーションは2024年10月から12月にかけて、Patentfieldに対して4件の特許権に基づく6件の特許権侵害訴訟を東京地方裁判所に提起しました。訴訟対象はPatentfieldのAI特許総合検索・分析プラットフォームとPatentfield AIRで、関連性評価機能、技術構成比較機能、分類評価機能など、ほぼ全ての機能について特許権侵害を主張しています。[8] [10] [11]

この訴訟は生成AI特許分野での知的財産権争いの象徴的な事例として注目されており、AI知財サービス市場の今後の発展にも影響を与える可能性があります。ただし、知財分野での生成AI活用が実用化段階に入らな中で、このような争いがイノベーションの阻害にならないよう、業界全体での建設的な対応が求められています。[11] [13]

市場動向と技術革新の背景

AI特許市場の急速な成長

世界のAI特許検索市場は2025年から2032年にかけて年平均成長率（CAGR）14.1%で成長すると予測されており、特許データの膨大な量に対する解析ニーズの増大とAI技術の進化による効率向上が成長の背景となっています。日本国内でも、特許庁の調査によるとAI関連発明の特許出願件数は2022年に約10,300件に達し、特に生成AI関連技術が注目を集めています。[14] [15]

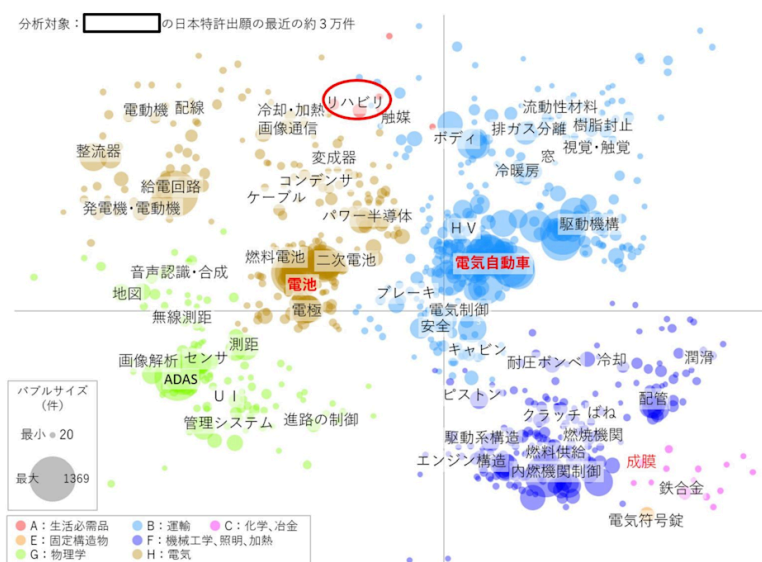
生成AI関連の特許出願は2014年の733件から2023年には14,000件超へと約19倍に増加し、年平均成長率38.8%という驚異的な伸びを示しています。この急成長により、企業が特許戦略の最適化や潜在的な侵害リスクの特定にAI技術を活用する傾向が顕著になっています。[16] [17] [14]

2. 特許情報のマーケティング活用について（技術俯瞰の事例）

40:51～

特許情報の適切な分析・検討により、一般的なマーケット情報よりも企業や市場について掘り下げて分析できます。

分析対象：[]の日本特許出願の最近の約3万件



分析ストーリーの例

動機：顧客企業の特許技術を俯瞰
計画：経営層に開発テーマを提示
データ入手：直近数年の国内特許約3万件
データ選択：国際特許分類（IPC）
集計：Patent Map EXZで集計
作図：Excelでマップ化し、パワポで要約
資料化：未知の技術分野を提示
報告：経営会議でビジネスチャンスを報告
行動：対応する技術の開発と権利化
利益：新規事業創出

例えば、セクションAのリハビリ器具（赤丸）を狙って開発と権利化をする戦略も考えられる。

特許情報から、マーケットを推測して社内の行動を促すことも可能！

Bubble map showing recent Japanese patent applications by technology category highlighting strategic areas like electric vehicles and rehabilitation for marketing and technology scouting.

日本市場の特殊性と課題

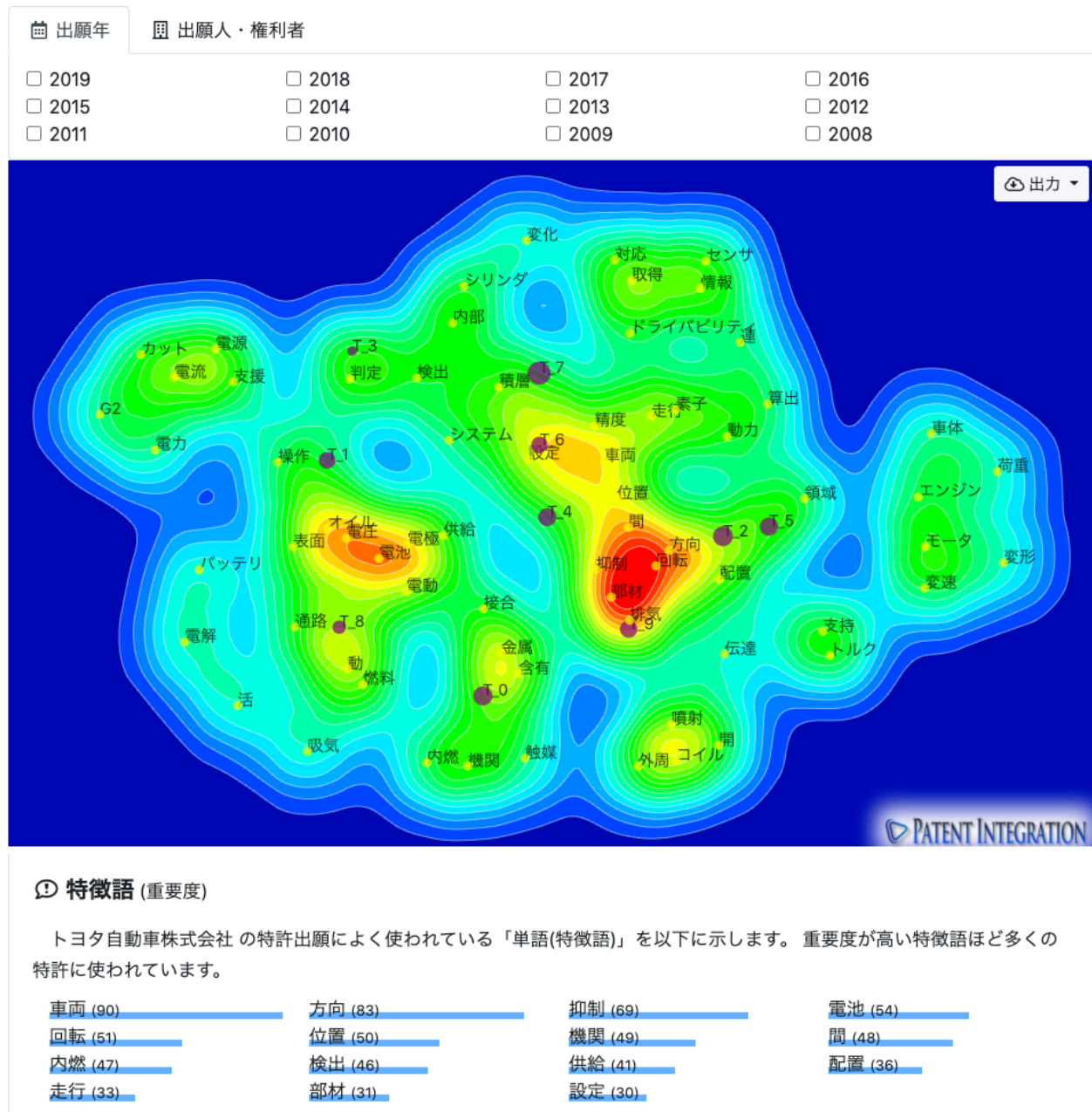
国際的な視点では、中国がAIコア技術の特許出願で米国の約8.5倍となる約44万件を記録し圧倒的にリードしている一方、日本は出願件数や成長率で大きく後れを取っているという厳しい現実があります。しかし、日本は医療診断や製造業向けのAI応用技術で独自の強みを持っており、質や応用分野での差別化戦略により競争力を維持できる可能性があります。^{[15] [18]}

このような市場環境の中で、PatentfieldのようなAI特許検索・分析プラットフォームは、日本企業の知財活動を効率化し、グローバル競争力向上に貢献する重要な役割を担っています。特に、生成AIによる特許情報の「見える化」は、専門知識のない担当者でも特許情報を活用できる環境を提供し、イノベーションの民主化を促進しています。^{[11] [2]}

技術的優位性と今後の展望

AI技術統合による差別化戦略

Patentfieldは4つの機能（プロフェッショナル検索・データ可視化・AIセマンティック検索・AI分類予測）を組み合わせたワンストップの総合プラットフォームとして、従来高度な知識が必要とされてきた特許調査・分析業務を最大80%効率化できると謳っています。AIセマンティック検索は、Patentfieldに収録されている膨大な特許公報のタイトル・請求の範囲・明細書等の情報をAIが事前学習し、特許公報内のキーワードの意味を理解することで、類似する技術を効率的に検索できます。^{[19] [20] [21]}



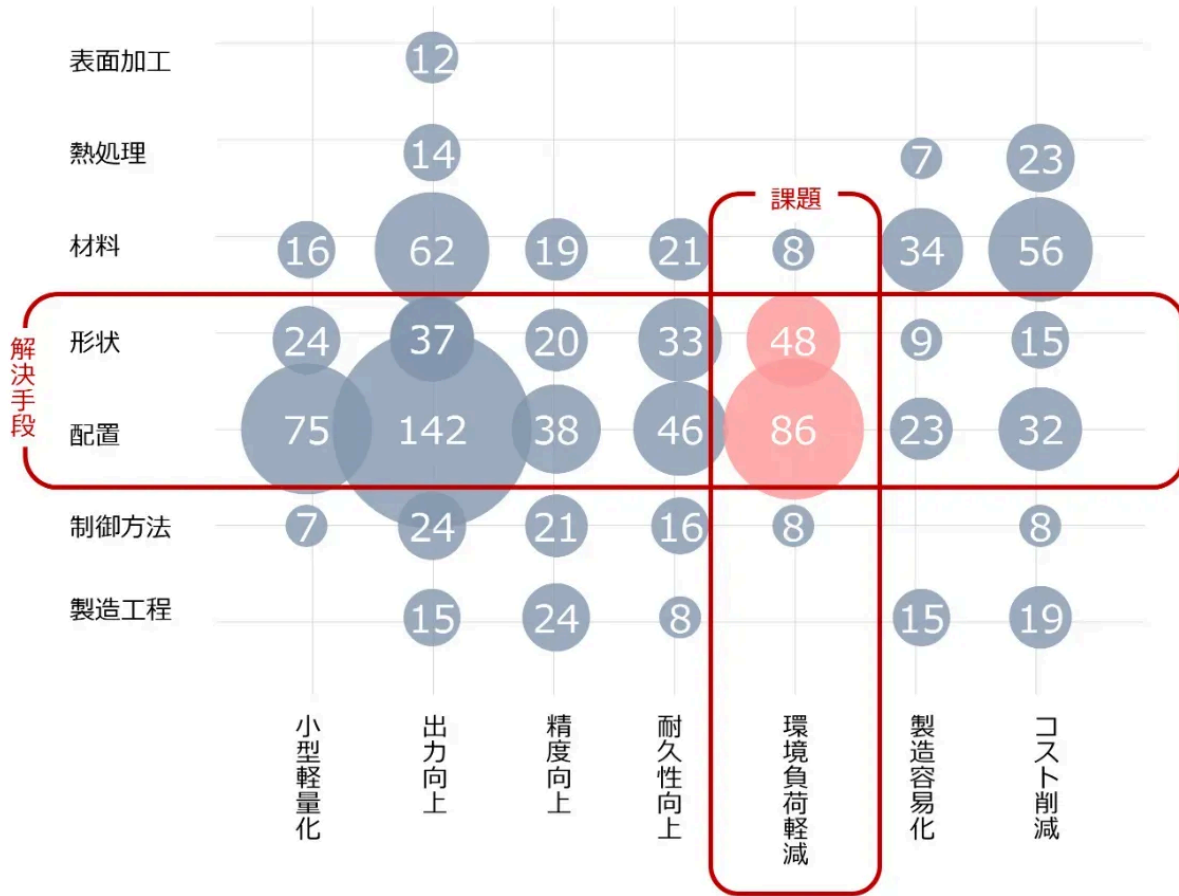
Heatmap of key technical terms from Toyota's patent filings showing technology focus areas and frequency of use from 2008 to 2019.

生成AI調査・分析オプションのPatentfield AIRでは、最大1万件の国内外の検索母集団に対して一括で生成AIの出力結果を得ることが可能で、特許文献の査読時間を約65%短縮できるとしています。GPT-4oをはじめGoogle Gemini 1.5 Flash、Claude 3.5 Sonnetなど、ユーザーが好みの生成AIモデルを選択して使用できる柔軟性も提供しています。[22] [23] [24] [25]

今後のサービス展開と技術革新

PatentfieldのCEO兼CTO村上直也氏は、「特許情報へのアクセスを一部の専門家だけのものにせず、誰もが特許情報にアクセスでき、それらを活用して企業のイノベーションにつなげてもらいたい」との思いからAIサマリーを開発したと述べています。この理念に基づき、特許を「読む」から「見る」への体験変革を通じて、知財関係者が「洞察」や「戦略策定」といったより創造的な業務に集中できる環境の構築を目指しています。[1] [2] [26]

パテントマップ（例）



Copyright © 2023 346 Inc. All Rights Reserved.

Example of a Japanese patent map showing patent distribution across technological and problem-solving categories with highlighted focus areas.

今後は先進AI技術で知財情報の価値を最大化し、日本のすべての企業のイノベーションを支援していく方針を掲げており、AIサマリーグローバルの展開により、出願件数が加速度的に増加している中国をはじめとするグローバルな特許調査・分析シーンでも同様の「見る」体験を提供する予定です。^[1]
^[2]

- 特許の
 - ①出願人
 - ②出願年
 - ③出願先
 - ④技術の特徴
 - ⑤解決する課題
 - ⑥用途
 などの解析軸を掛け合わせて、各社の特徴を明確化
- 競合他社の研究体制や地域戦略を可視化

2軸解析

解析軸1	解析軸2
① 出願人	出願先
	出願年
	技術
	優位性
	用途
② 出願先	出願年
	技術
	優位性
	用途
③ 出願年	技術
	優位性
	用途
④ 技術	優位性
	用途
⑤ 優位性	⑥ 用途

Technology

	1 コスト	2 強度	3 品質	4 サイズ	5 重量	6 効率	7 柔軟性	8 簡単な方法	9 耐久性	10 精度	11 均一性	12 密度	13 安定性	14 剛性	15 欠陥	Total
1:パウダー	18	17	19	8	7	23	4	5	3	15	5	5	3		18	412
2:金型	17	8	10	2	12	14	2	5	4	6	2	2	5	6	6	260
3:ノズル	4	2	5	6	3	5	3	1		7		1	1		2	225
4:温度/加熱	15	10	10	5	5	16	2	5	5	5	2	5	4	2	11	407
5:基板/制御	8	5	4	8	2	11	5	3	4	144	1	2	2	2	5	274
6:混合物	10	10	6	2	2	4	2	1	3	1		3	3	2	3	155
7:モーター	5		2		2	5				4	1				1	136
8:印字ヘッド	9		7	4	3	10				3	1		1			200
9:空洞	4	7	6	6	8	2	2	2	4	2	1	2		2	4	122
10:光	3	3	2	3	1	7				7					1	112
11:厚さ	4	4	2	1	2	6	1			1		2	1	2	1	109
12:圧力	3	4	7		2	3	1	2	4			3	1	1	2	92
13:時間	2	1	1			2	1			2					1	92
14:繊維	4	7	2	3	2	1	1	2	2		2	4		3		70
15:フィルム	6	4	3			2	1	2	1	1		1	2		1	63
16:融解			4	2	1	3			1	2			1	1	1	62
17:画像	7		4	1	1	4	1	1	1	5					2	61
Total	247	163	155	85	74	234	66	63	62	141	53	48	48	42	78	

3D7 リンクの例

*3軸解析、4軸解析のデータグラフは手法を説明するための架空のサンプルです

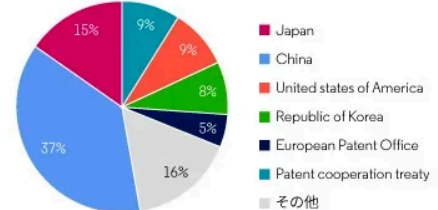
3軸解析

■出願人

■経年変化

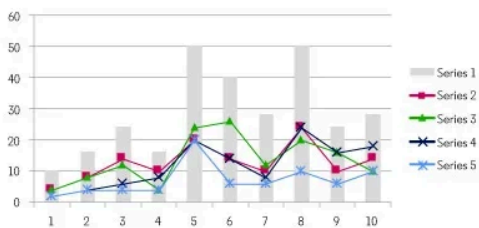
■出願先

	出願人	件数
1	STRATASYS	42
2	3D SYSTEMS	30
3	Panasonic	15
・		..



4軸解析

■出願先別の経年変化



Comprehensive patent data analysis including multi-dimensional attribute matrix, applicant trends, and regional distribution visualization.

結論：特許情報の民主化とイノベーション促進への貢献

PatentfieldのAIサマリー機能は、生成AIを活用した8000万件の特許の「見える化」により、特許情報アクセスの民主化を実現する革新的なサービスです。国内特許を対象とする標準機能と10月1日リリース予定のAIサマリーグローバルにより、日本語での包括的な特許分析環境を提供し、専門知識のない担当者でも直感的に特許情報を活用できる環境を構築しています。

2025知財・情報フェアでの展示は業界の高い関心を集め、満席となったプレゼンテーション会場や積極的な無料トライアル戦略により、市場での存在感を確立しています。競合他社との機能比較では、総合プラットフォームとしての包括性と生成AI技術の統合により差別化を図っており、特許権侵害訴訟といった課題を抱えながらも、技術革新と市場拡大を継続しています。

AI特許市場の急速な成長とグローバル競争の激化の中で、Patentfieldは日本企業の知財活動効率化とイノベーション促進に重要な役割を果たしており、今後のサービス展開と技術革新により、さらなる市場シェア拡大が期待されます。



1. https://news.nicovideo.jp/watch/nw18233502?from=a_newslst_4726010
2. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000059.000025380.html>
3. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000057.000025380.html>
4. https://www.excite.co.jp/news/article/Prtimes_2025-08-28-25380-57/
5. <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tyousakai/kousou/2025/dai3/siryou5.pdf>
6. <https://aisamurai.co.jp/landingpage/>
7. <https://aisamurai.co.jp>
8. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000086119.html>
9. https://note.com/yu_py/n/na23e6c4375eb
10. <https://xexeq.jp/blogs/media/topics32489>
11. <https://yorozuipsc.com/blog/67035353>
12. <https://patent-i.com/summaria/>
13. <https://aisamurai.co.jp/2024/11/14/seminar2024/>
14. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/b4acb0b0a9c72fe9b2bd.pdf>
15. <https://braina.net/2025年8月総合コラム：a i 関連特許、中国が圧倒/>
16. <https://patent-revenue.iprich.jp/専門家向け/935/>
17. <https://www.enegaeru.com/ai-intellectualproperty>
18. https://plus-web3.com/media/latestnews_1000_3548/
19. <https://evort.jp/presentations/patentfield/platform>
20. <https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/aiセマンティック検索>
21. <https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/サービス内容>
22. <https://evort.jp/article/patentfield-air>
23. <https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-生成ai調査-分析オプション>
24. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000047.000025380.html>

25. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000051.000025380.html>

26. https://news.livedoor.com/pr_article/detail/29541955/

27. https://www.excite.co.jp/news/article/Prtimes_2025-09-12-25380-59/

28. <https://dxmagazine.jp/news/2541rk40/>

29. <https://www.shopowner-support.net/hr/personnel-recruitment/manufacturing-industry/patent-search-system/>

30. <https://ai-watch.jp/latest/26456/>

31. <https://jobtalk.jp/companies/9578693>

32. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000058.000025380.html>

33. <https://jp.indeed.com/cmp/Patentfield株式会社>

34. <https://x.com/patentfield>

35. <https://jobcatalog.yahoo.co.jp/company/2002890051/>

36. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000052.000025380.html>

37. <https://note.com/arisadaman/n/na8cece4eb88b>

38. <https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/機能別の基本操作マニュアル>

39. https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/document/zaisanken-seidomondai/2023_06_zentai.pdf

40. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/cf022cc58fb798017a56.pdf>

41. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000044.000025380.html>

42. <https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/フリープラン>

43. <https://www.capterra.jp/software/1046763/patentfield>

44. https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf

45. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/34eff7c02387c7ab46b1.pdf>

46. https://www.nikkei.com/compass/content/PRTKDB000000057_000025380/preview

47. <https://pifc.jp/2025/report/>

48. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000055.000025380.html>

49. <https://pifc.jp/2025/>

50. <https://evort.jp/article/sdi>

51. <https://client.re-shine.jp/case/patentfield>

52. <https://aisamurai.co.jp/2022/09/29/ipi-update/>

53. https://chizai.jp/chizainews/20241129_Patentfield.pdf

54. https://note.com/super_whale150/n/n5d509b852f78

55. <https://yorozuipsc.com/blog/appia-engineai-samuraiaxelideai>

56. <https://iptops.com/news/1101911>

57. <https://startup-db.com/companies/7LPWpoVURBwGz5Em>

58. <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2025/0e18179d0febfbdb8.html>

59. https://note.com/ip_design/n/nd13fd85dfd7d

60. <https://note.com/patentfield/m/md4c7cb5089d3>

61. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000492.000040956.html>

62. <https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/service/document/index/2023hokokusho.pdf>

- 63. https://www.jpo.go.jp/resources/report/gidou-houkoku/tokkyo/document/index/2025_report_ai.pdf
- 64. <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd219100.html>
- 65. <https://pando.life/article/1805329>
- 66. <https://jpaa-patent.info/patent/viewPdf/4642>
- 67. <https://initial.inc/companies/A-30295>
- 68. <https://yoroziupsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/a42d03fcfdc1a68b208.pdf>